

# 2022-2030

## 八女市地域エネルギービジョン [概要版]



### エネルギービジョンの背景と目的

石油や石炭などの化石燃料は、私たちが利用する電気やガソリンなど様々なエネルギーを生み出す重要な資源となっています。しかし、化石燃料の使用により発生する二酸化炭素は地球温暖化の大きな原因であり、対策が喫緊の課題となっています。

脱炭素社会の実現は八女市が単独で推進することは難しく、市民や事業者の協力が不可欠であり、あらゆる分野に関係するものであるため、環境面だけでなく、社会、経済的側面からも検討する必要があります。

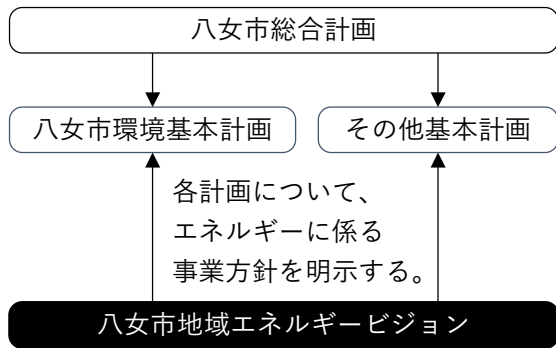
そこで、エネルギー関連事業を通し、脱炭素社会の実現を進めるとともに、環境に負荷をかけない持続可能なまちをつくることを目指し、この「八女市地域エネルギービジョン」を策定します。



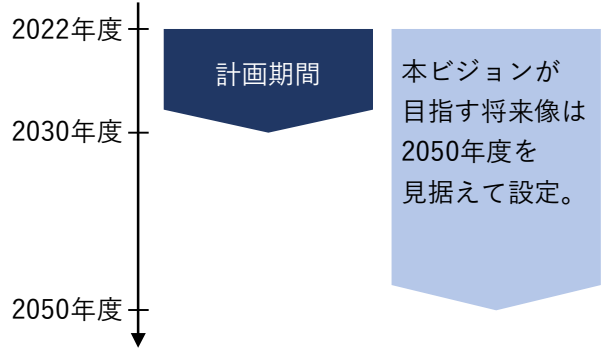
### 計画体系と本ビジョンの計画期間

- ・本ビジョンは、「第5次八女市総合計画」で定めた将来像を、エネルギーの側面から実現するものです。
- ・計画期間は、2022年度（令和4年度）から2030年度（令和12年度）とします。

#### 本ビジョンと八女市の計画体系



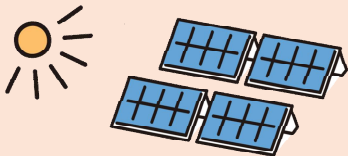
#### 本ビジョンの計画期間



### 八女市の再生可能エネルギーのポテンシャル

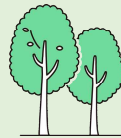
- ・「再生可能エネルギー」とは、太陽光や水、風などの枯渇しないエネルギーを指します。
- ・八女市は、県内有数の広大な面積と森林を持ち、多くの河川も走っているため、再生可能エネルギーのポテンシャル（＝利用可能な潜在量）が高い地域と言えます。

#### 太陽光発電



- ・市内のポテンシャルが大きい。
- ・比較的安価で設置可能。
- ・設置できる場所も多いが、環境への悪影響を考慮することが重要となる。

#### 木質バイオマス発電



- ・市の豊富な森林を活かせる。
- ・小規模なら市内設置が検討可能。

#### 水力発電



- ・あまり天候に左右されない。
- ・大規模なものは設置コストが高くなる。

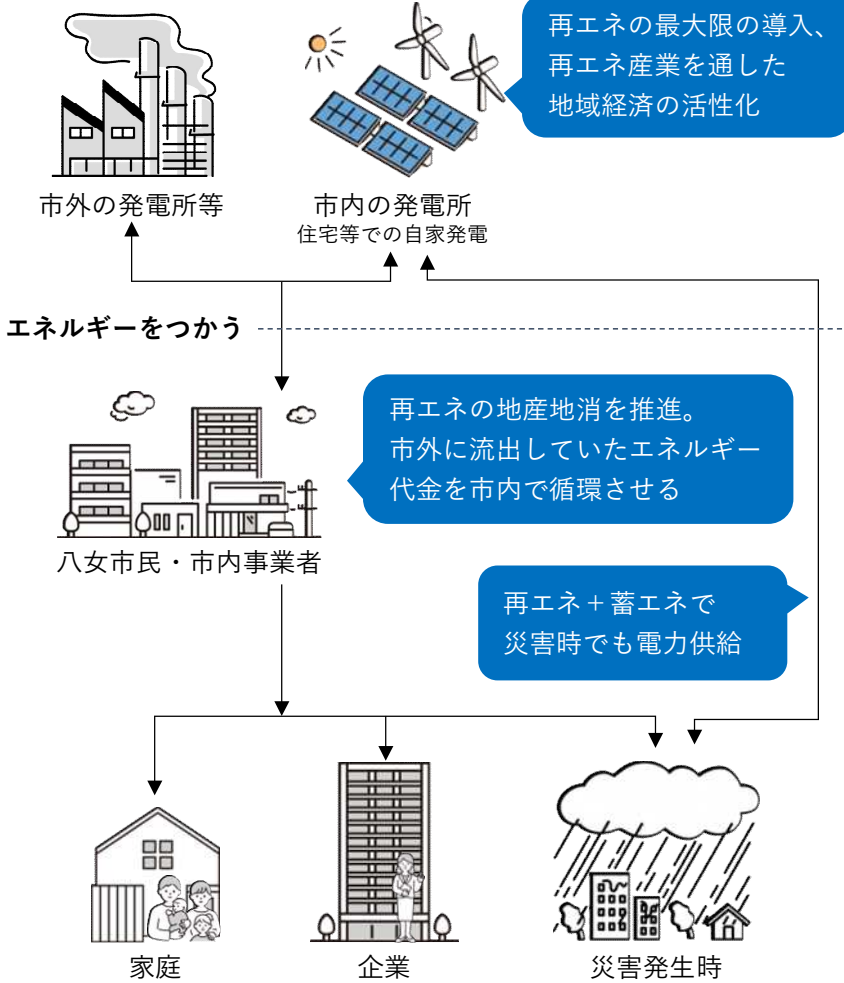


# 八女市が目指す将来像

- ・本ビジョン策定にあたり、取り組みのイメージを示したのが以下図です。
- ・目指す市の将来像は、「**地域資源（人・組織・自然）を活かした持続的で自立的なまち**」としました。
- ・また、本ビジョンは、行政のみならず、市民／事業者も対象とします。

エネルギーをつくる

国内外の大きな動きへの対応



## 脱炭素社会の形成

温室効果ガスを排出しない社会を形成し、地球温暖化の弊害の緩和を図る。

## DX推進

行政DXを進めるほか、様々な分野でICTを活用することで、デジタル化に対応した社会の構築を目指す。

## 長期的視点を持った施策

数十年かけておこるトレンドや人口構造の変化を見据え、長期的視点を持ち実行する。

脱炭素社会に資するライフスタイルへの変化を促進（EV等）

省エネの推進

人口減少社会に対応する省人化の推進

将来像（ビジョン）

**地域資源（人・組織・自然）を活かした持続的で自立的なまち**

八女市総合計画の将来像

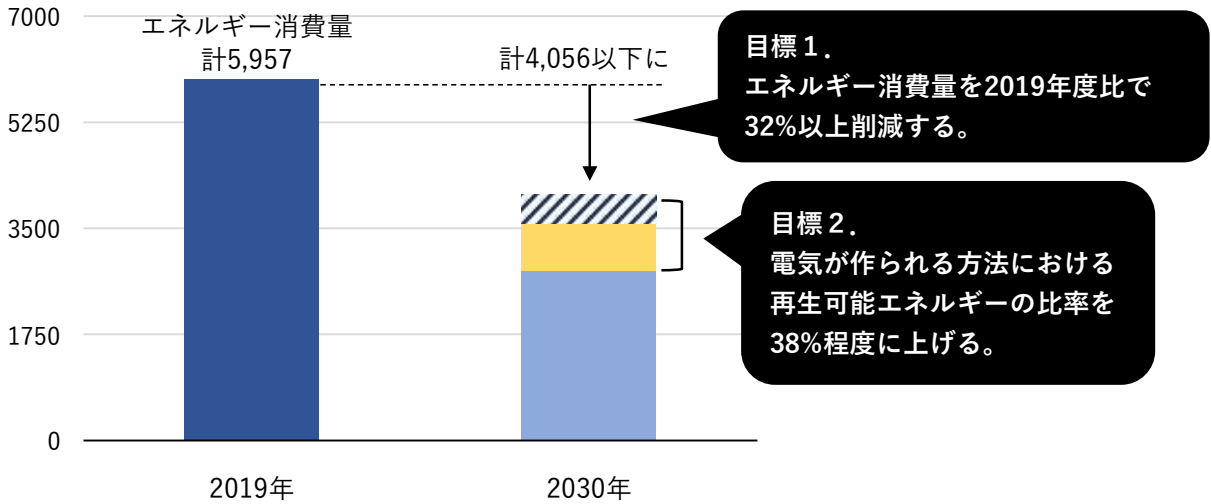
ふるさとの恵みと誇りを未来につなぐ 安心と成長のまち 八女



## エネルギーに関する数値目標

- ・本ビジョンにおいては、以下2つの数値目標を設定します。
- ・1つめは、「エネルギー消費量の削減目標」です。地球温暖化対策において政府が設定している、「2030年までに2013年度比で温室効果ガスを46%削減する」目標を達成するために設定します。
- ・2つめは、「再生可能エネルギーの導入目標」です。政府の「第6次エネルギー基本計画」に基づき、再生可能エネルギーの導入目標を設定します。

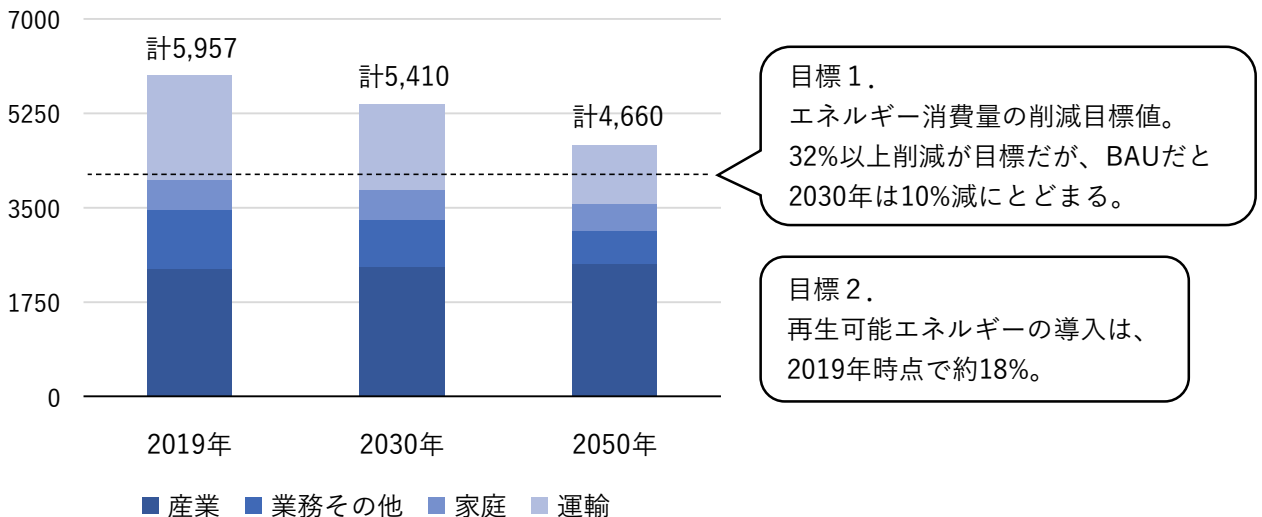
本ビジョンの目標達成イメージ（左軸単位：TJ）



## 将来予測シナリオと目標とのギャップ

- ・本ビジョンにおいては、八女市の将来のエネルギー消費量を複数パターンで推計しています。
- ・新たな取り組みを行わない将来予測、「BAUシナリオ」においても、エネルギー消費量は減少します。これは、八女市の人口が減少するためです。
- ・しかし、以下のグラフが示すとおり、BAUだけでは目標を達成できないため、追加の事業が必要です。

エネルギー消費量のBAUシナリオ（左軸単位：TJ）

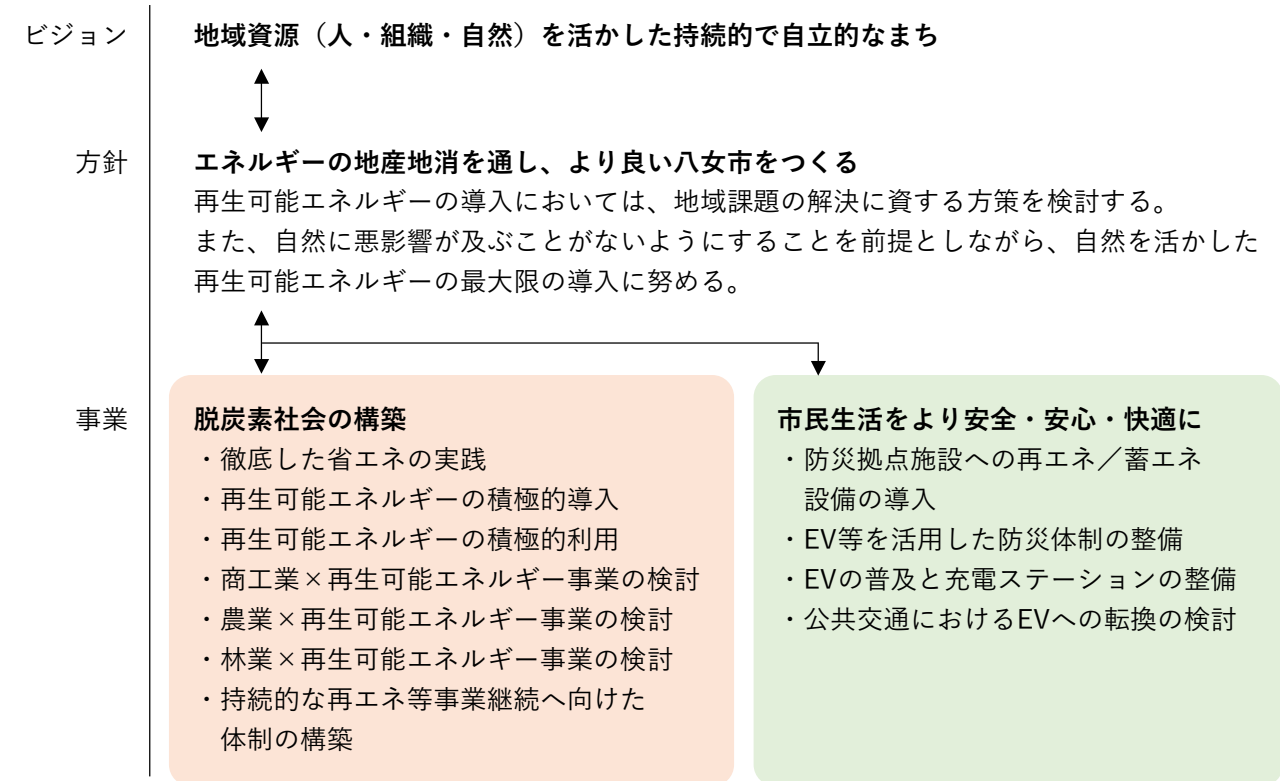




## ビジョン達成へ向けた事業

- ・ビジョン達成へ向けて必要と考えられる事業を以下にリストアップします。
- ・また、各事業を貫く再生可能エネルギーの導入に係る考え方として、「方針」を定めます。

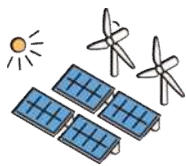
### 事業体系図



## 事業イメージ（一例）

- ・上記に挙げた事業のうち、その一部のイメージを図示します。
- ・「徹底した省エネの実践」「再生可能エネルギーの積極的導入／利用」「防災拠点施設への再エネ／蓄エネ設備導入」「EV等を活用した防災体制の整備」については優先的に取り組みます。

### 再生可能エネルギーの積極的導入



- ・主力は太陽光発電
  - ・水力、バイオマス資源※は持続性と経済性を考慮し、小規模で検討。
- ※木質、廃棄物系など

### 農業×再生可能エネルギー事業の検討



- ・営農型発電
- ・木質チップボイラ利用等
- ・経済性を鑑みて検討する。

### 防災拠点施設への再エネ／蓄エネ設備の導入



- ・避難所に再エネ発電設備、蓄電設備を導入、被災時の電力供給源を確保。
- ・EV公用車を「移動する蓄電池」として活用、電気が必要な施設に供給する。